

向学館通信

2007・9・28

お彼岸を過ぎても暑い日が続いています。地球温暖化という言葉が嫌でも実感させられた夏でした。子どもたちが大人になるころ、地球環境がどうなっているのか心配です。

★小6、中3、高3の受験生にとっては、いよいよラストスパートの時期になりました。いっそうの頑張りを！

小論文指導をして感じたこと

大学のAO入試など、小論文で受験する人が増えてきています。これは、ある意味では、いいことだと考えます。論文を書くのは、丸暗記能力だけではできないことで、理解力、要約力、創意工夫などが必要です。こうした能力を磨くことは、学業だけでなく、大人になってからの仕事にも役立つはずで

最近「つめこみ」教育が幼少期から行われることが増え、たくさん覚えることが勉強だと考えている親御さんや子どもさんが多いように思います。自分の頭で考えることができないで、分からない問題にぶつかるとすぐに「わからん」といって教えてもらおうとします。自分がすでに持っている解決方法をいくつか組み合わせると解けることでも、それをしようとしないう人が多いのです。小学生、中学生のときから、このように考えることが嫌いになってしまうのは、未恐ろしいことです。このような「考えない」子を作らないためにも、作文や小論文はとても有効だと考えます。

さて、大学受験が迫ってきて、学科試験では合格しそうにないのでAO入試を受けてみようというということで「小論文をかくコツを教えてください」と駆け込んでくる人が毎年、何人かいます。こういうタイプの方は、なかなかうまくいきません。「ちょっとしたコツ」さえ飲み込めば文章が書けると思っているようですが、やり始めると大変な苦戦になります。

当塾では、小論文の最初の練習は、文章を読んでその要約をしてもらっています。要するに、読んだ文章を、たとえば2000～3000字くらいの文を300～500字くらいにまとめるのですが、これがなかなか難しいのです。文の初めの方だけを書いていたり、終わりの方だけについて書いてあったり、文全体の流れをつかめずに部分的な「抜書き」にしかならない人がいます。また、少し難しい文ですと、意味を取り違えることもよくあります。

つまり、読み取る力がなく論理をたどれない人には、要約はかなり難しいことなのです。こういう人には、読解の勉強にもどって、何が書いてあるかを正確につかまえてもらうことから始めることとなります。

また、かなり作文力のある人でも、政治、経済、社会、環境、国際問題などのやや専門的な文章は苦手だという人がいます。このような人も受験する大学の過去問題を調べて、たとえば世界のグローバル化の問題が出そうだと判断すると、苦手でもその領域のことを一通り知っていなければ、小論文は書けません。社会問題や時事問題にまったく関心がない人、また、政治や経済などに弱い人は、書くべき「内容」を持っていないために文が書けないこととなります。受け売りの表面的な知識しかない、3行も書けばもう書くことがなくなってしまいます。

こんなわけで、安直に考えてきた人は、かなりの苦戦になるわけです。だから、せめて1年以上かけて、物知りになりながら文章も上達する道を選んでほしいと考えています。

中3生の定期テスト対策の勉強方法について

中3生の学校のテストに対する姿勢あるいは勉強の仕方には「甘さ」や「無駄」がかなり多いと思います。とくに目立つのは、理科、社会の勉強の仕方です。

中3の今頃のテストは、高校入試のための勉強もかねていると考えてください。今頃やっている範囲の、社会の「公民」や理科の各単元は、高校入試にもいっばん出やすいところです。だから、しっかりと理解して入試本番まで頭に残るような勉強の仕方をしなければ、大損です。テスト直前になって大急ぎで「つめこんで」その場しのぎをすれば、1ヶ月もたてば覚えたことをみんな忘れることとなります。受験直前になってまた慌てて受験勉強のし直し、ということとなります。二度手間をして、二度とも悪い点をとるようなことは、やめてください。

勉強の仕方が分からない人は、ぜひ相談に来てください。